

～慶長出羽合戦序盤で散った気骨の武将の墓～

けいちょうごねんめいえぐちごへえはか 慶長五年銘江口五兵衛の墓

市指定有形文化財（史跡）

小滝地区西側の山中にひとかたまりの墓地があります。小滝地区元江口家の墓地です。

その中に畑谷城主江口五兵衛光清あききよの墓があります。江戸時代初期にみられる板碑に似た形態で、三角頂部が少し突き出し、高さ 112cm、幅 36.5cm あります。「長松開基江月秋公大居士」と戒名を刻み、江口五兵衛死去の年に当たる慶長 5 年の記銘があります。長松は畑谷にある江口五兵衛開基の寺の名前です。

江口五兵衛光清は、最上家の家臣で、山辺町西部の畑谷城主でした。慶長 5（1600）年に起きた奥羽の関ヶ原と言われる慶長出羽合戦の際、荒砥方面から最上領に侵攻した、直江兼続率いる上杉軍から攻撃され、畑谷城は陥落、約 500 人の城兵と共に討ち死にしました。文武両道で、多くの人に慕われる武将であったと言われています。上杉の大軍襲来を前に退却の許可を得たにもかかわらず、主である山形城主最上家への奉公心から、畑谷城に籠城したとも言われ、気骨の武将と伝えられています。

江口五兵衛の墓は、戦死を免れた城兵やその子孫が山形市周辺に建てたとみられ、山形市内、上山市内、山辺町内にあると言われています。山辺町畑谷の長松寺とともに「小滝の墓」がよく知られています。小滝の伝承では、小滝の墓は、隣接する上山市山元地区と小滝地区の、逃げてきた城兵とその子孫たちによって建てられたものと言われています。

上杉領であった小滝に最上家家臣江口五兵衛の墓がなぜ建てられたのかは疑問です。小滝には最上家の旧臣である漆山丹波なる者が居住しており、この戦では、最上軍にも上杉軍にも参陣しなかったと言います。江口家家臣が彼を頼って逃げてきたのではないかとみられています。



▲江戸時代初期の板碑に類似した江口五兵衛の墓

この墓は、単なる戦死した武将の墓というものを越えて、現代人にも大事なことを伝える貴重な歴史遺産です。南陽市指定史跡となっています。

南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄
平成 28 年 3 月 1 日号 市報なんよう掲載